

低炭素時代に「緩速濾過法」脚光

信州大学名誉教授・

NPO法人地域水道支援センター理事長

中本信忠氏に聞く



古典的な浄水処理法として知られる「緩速濾過法」だが、いま環境負荷の少ない、環境にやさしい、しかもコストのからない低炭素社会の省エネ技術として脚光を浴びている。地球環境時代にぴったりの緩速濾過技術を再び蘇らせようと、国内外で精力的に活動している信州大学名誉教授でNPO法人地域水道支援センター理事長の中本信忠氏に同技術の普及に賭ける熱い思いを聞いてみた。

(茂木康一郎)

低コストの省エネ技術

いま浄水処理の分野 したわけだ。それで塩素 がわいてしまう。本当は生 変える。そのためには名前 を変え、誤解を解いていか ないといけません。

指針作りにワーキンググループ設立

中本 緩速濾過がすばら を殺すために行っていた前 英語で言うときは、エ コロジカルです。

は、いまから27年前の信州 大学に就職したの頃で す。そのときに浄水場の人 が私の研究室を訪ねてき た。それがこの仕事のきっ かけです。生物現象に対す る薬は臭いにおいをつくる 誤解を正そうと思って、 悪い薬だ。けれども上田の この研究を始めたのです。

実は1974年に「ハリ っりの砂濾過」という意味 が、砂の上1、2cmを通 過する時間はわずか数分で す。数分の間に、濁りやに おいなどといったものは全 り直そう、ということだ、

中の水道業界は、ギョッと 伝子工学といったイメージ というイメージを抜本的に 教科書をつくり直すとい

この共生の3本柱を挙げ、 低炭素社会を実現するため の技術をラインアップして います。浄水技術としては 緩速濾過へのシフトこそ、 あるべきです。

実は、浄水場の研究をし ていたところ、ダム湖の浄 化方法としても使えるので はないかということだ、旧 建設省土木研究所のダム部 門が、藻の繁殖を活用した浄

実は速い瞬間浄化法

エコ技術に全国自治体が注目

全国的自治体が緩速 濾過に切り替えたいといっ た動きが出てきていると聞 いています。

中本 それはエコとい う、つまり薬品を使わない という意味で、安全性が高 いという認識を持ち出した という認識を持ち出した

中本 はい、現状は計 画設計指針等にほとんど 明もない、これが実態な わけですね。

中本 はい、そうですね、 採用しようにも採用できな いわけですね。ただ、地方自治体は財政が逼迫して立ち 行かなくなっているわけ

社会の実現といったことで 加えて浄化するというのが 濾過を教えるに行きます。 国



緩速濾過の浄水場として新設した広島県三原市の西野浄水場

や膜など、薬品を入れて、 混ぜて、落として、濾過し てと全国一律な指針です。 緩速濾過も同様の扱いで す。

本日は、気候帯も、水源

も違うので、生物現象に対 してはいろいろなケースが あります。それに対する指 針が整備されていないの

安全でおいしい水ができ ればいいわけです。設計指 針は、もっとアバウトとい

中本 はい、高いです。 各県にこのNPOの仲間が いる、まずは来年のいまご

中本 活動の目指すところ は、まずは来年のいまご

中本 活動の目指すところ は、まずは来年のいまご